

ゼロカーボンシティ宣言都市さんむ ゼロカーボンアクション

ゼロカーボンアクションとは、脱炭素社会の実現に向けた一人一人の行動です。今回は、ごみを減らす取り組みについて紹介します。3R（リデュース：ごみの発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再生利用）はCO₂排出量の削減につながります。

①マイボトル・マイバッグ

繰り返し使える製品を持ち歩き、使い捨てプラスチックの使用を減らしましょう。

②物の修理や補修

キズや汚れ等によってすぐに物を捨てる習慣から、物を長く大切に使う習慣に変えましょう。新しく購入するコストも削減できます。

③フリーマーケット等

不要となった物をすぐに捨てず、必要とする他の人に使ってもらいましょう。

④シェアリング・サブスクリプション

定額料金による一定期間のサービスを利用し『自身で物を所有しない＝捨てない』という選択肢を持ちましょう。

⑤ごみの分別処理

分別された資源ごみは再生利用され、リサイクル製品を作り出すことができます。

◆市で行っているごみの減量化に関する取り組み

市では家庭から出るごみの減量化を推進しています。

リサイクルできる資源物（紙類・カン・ペットボトル・繊維類等）を有効活用するため、回収運動を実施している自治会等の団体に対して奨励金（回収量1kgにつき3円）を交付しています。

また、紙類（ダンボール・新聞・雑誌・牛乳パック）については、市役所および各出張所にリサイクル倉庫を設けていますので、ぜひご利用ください。



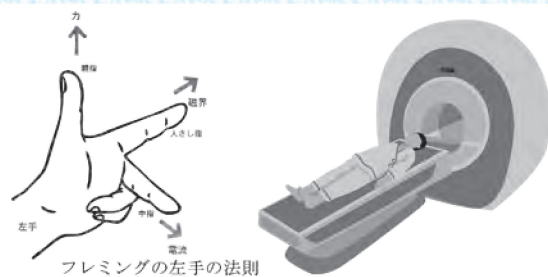
さんむ医療センターからのお知らせ

MR Iの大きな音は？

MR Iとは、磁気共鳴現象を利用することで生体内に発生させたMR信号を画像化する装置で、さまざまなコントラストの画像や血管画像などの検査をします。検査中は、狭いトンネルのような中に長時間入り、ガガガガガ…ガンガンガン…と工事現場のような、大きなうるさい音が検査中は常にしています。

では、なぜ検査中に大きな音がするのでしょうか？

MR I検査は、強い磁場とラジオ波の作用により人体を構成している水分（水素原子）の情報を読み取って画像化する装置です。装置は強い磁石とコイルでできています。このコイルに電流が流れると磁場と磁力が発生します。この3つの関係は、フレミングの左手の法則を思い浮かべてください。



検査では発生した磁場だけを利用したいのですが、どうしても磁力が発生してしまいます。この磁力がコイルを振動させてしまい、振動が大きな音となって聞こえます。もっと身近にあるものに例えるとスピーカーです。スピーカーはコイルと磁石、振動板（コーン紙）でできています。このコイルに電流（電気信号）を流すとコイルとつながっているコーン紙が振動して音が発生します。

音にいくつかの種類があるのは、目的に応じて電流のON、OFFのタイミングが変わるからです。

MR I検査時の音は、生体内の微弱な信号を受信する為の大切な音です。この微弱な信号を何回も収集する事によって画像化していますので、動かずに、大きなうるさい音にもご協力をお願いします。

さんむ医療センター 放射線科